「社会的事象と自分たちとの関わり方について考えるために」

山口大学教育学部附属山口小学校　原田　圭介

（１）文化財を保存・継承する取組と自分たちとの関わり方について

子どもたちは、これまで、廃棄物を処理する事業や飲料水を供給する事業、自然災害から人々を守る活動と自分たちとの関わり方について考えてきました。それらの事業や活動は、自分たちの生活に直接影響を及ぼす社会的事象であるため、子どもたちは切実感や必要感をもって、自分たちの関わり方について考えることができました。しかし、そのような子どもたちにとって、文化財を保存・継承する取組と自分たちとの関わり方について考えることは容易ではありません。なぜなら、文化財を保存・継承する取組は、廃棄物を処理する事業や飲料水を供給する事業、自然災害から人々を守る活動と違い、自分たちの生活に直接影響を及ぼす社会的事象ではないからです。だからこそ、文化財を保存・継承する取組と自分たちとの関わり方、ここでは、文化財を残すために自分たちにできることについて考えることは、今後どのような社会的事象に出合っても、自分たちの関わり方について考えていくことにつながるであろうと考えました。そこで今回は、文化財として瑠璃光寺五重塔を取り上げた、「未来に残したい！わたしたちの瑠璃光寺五重塔」の実践を紹介します。

瑠璃光寺五重塔

（２）学びの実際

子どもたちは、山口市内にある石碑に何と記してあるのかを予想していきました。子どもたちは「山口市の紹介かな」などと予想する中で、側面に「ゲンジボタル発生地」と記してあることに気付きます（ゲンジボタルは山口県無形文化財）。この石碑には「文化財をたいせつに」と記してあるのですが、この時点では子どもたちはその意味がよく分かりません。その後、子どもたちは、「文化財」「重要文化財」「国宝」という意味を知り、山口県の国宝のひとつである「瑠璃光寺五重塔」について調べることにしました。

市内にある石碑

子どもたちは、瑠璃光寺五重塔について調べてわかったことを交流する中で、「瑠璃光寺五重塔は誰が管理しているのか」や「山口市外に移されそうになったときのことを知りたい」など、新たな疑問を生み出しました。それらの疑問を解決するために、実際に瑠璃光寺五重塔を見学することにしました。

子どもたちは、瑠璃光寺五重塔を見学したり、観光ボランティアガイドにインタビューしたりすることで、疑問を解決していきました。観光ボランティア

ガイドからは、瑠璃光寺五重塔を保存・継承する取組についての話を聞くことができました。子どもたちの意識は、瑠璃光寺五重塔の保存・継承に焦点化されてきたのです。その後、子どもたちは、見学での気付きを交流する中で、保存・継承には瑠璃光寺住職や檜皮葺（ひわだぶき）職人、市役所の文化財保護課、山口市民など、様々な立場の人々が関わっていることに気付きました。保存・継承の取組について追究している子どもたち、次は文化財保護課の人に話を聞くことにしました。

インタビュー活動をする子どもたち

子どもたちは、文化財保護課の人の話から、瑠璃光寺五重塔がなくなると、当時の文化や歴史などの過去が全て失われてしまうため、社会全体で瑠璃光寺五重塔を守っていくことが大切であることを学びました。次は、異なる立場から保存・継承に携わっている瑠璃光寺住職や檜皮葺職人から話を聞くために、再度、瑠璃光寺五重塔を見学することにしました。

今回の瑠璃光寺五重塔の見学では、瑠璃光寺住職や檜皮葺職人の方から瑠璃寺五重塔の保存・継承の取組について、話を聞くことができました。子どもたちは、保存・継承には多額の費用がかかることや、檜皮葺の材料になる檜が不足していること、檜皮葺の後継者を確保・育成しなければならないことなど、様々な問題があることを捉えました。また、その中で、瑠璃光寺五重塔を残していくためには、未来を生きる自分たちの取組も必要であることに気付くことができたのです。

保存・継承の話を聞く子どもたち

その後、子どもたちは、見学で得た気付きを交流しました。そのときの様子を以下に記します。

Ｔ児：瑠璃光寺五重塔を残すために自分たちができることってあるのかな。
Ｈ児：瑠璃光寺五重塔のすばらしさを知ってもらうことが、残すことにつながると観光ボランティアさんや文化財保護課の方が言っていたよ。
Ｓ児：家族に瑠璃光寺五重塔のすばらしさを知ってもらうことならできそうだね。
Ｍ児：ぼくは、友だちをさそって、次の休みに瑠璃光寺五重塔に行ってみるよ。
Ｋ児：他にもあるよ。瑠璃光寺五重塔にあった募金箱に募金することもできるのではないかな。
Ｔ児：あーそうか。瑠璃光寺五重塔を残すために、自分たちにできることって思いつかなかったけれど、そういう方法があるのか。自分たちにできることがあることがわかったよ。

子どもたちは瑠璃光寺五重塔を保存・継承するために自分たちにできることについて、考えを深めていきました。自分たちの生活に直接影響を及ぼす社会的事象ではない文化財の保存・継承に対しても、自分たちの関わり方について考えることができた子どもたちは、今後の社会科学習において、様々な社会的事象と自分たちの関わり方という視点で学ぶことができると考えています。

山口大学教育学部附属山口小学校　原田 圭介
E-mail:k.harada@yamaguchi-u.ac.jp

ご意見、ご感想がございましたら、
お願い致します。